



みなみせや

心のキャッチボール

校長 小宮 健

今年もご家庭や地域の方々がしっかりと見守っていただき、40 日間の夏休みが無事に終わったことに心から感謝申し上げます。

さて、盛夏の風物詩である高校野球。今年も甲子園球場で熱戦が繰り広げられました。

野球の基本であるキャッチボールに目を向けると、当たり前のことですが、キャッチボールは相手がいなくては成り立ちません。そして、『ボール』を『人の想い』へ置き換えてみると、キャッチボールは相手とのコミュニケーションそのものだということに気付かされます。

ボールを捕ること = 相手の想いを自分が受け止めること

投げられたボールの強さや速さは、相手の想いを表していて、それを受け止めることは相手の心情を理解することと似ています。時には上や横にそれて手が届かなかったり、ワンバウンドで捕りにくかったりすることもあります。受け止めきれずに後逸して拾いにいくこともあるでしょう。もちろん、よそ見していたら捕れません。



基本は相手と正面から向き合うことですが、相手があまりにも一方的なときは、見逃したり、無理に捕りにいかずにあきらめたりすることもあるかもしれません。

ボールを投げること = 自分の想いを相手に伝えること、受け止めてもらうこと

投げるボールは自分の想いです。相手の状況（経験値や力量）を踏まえつつ、胸を目掛けて取りやすいボールを投げます。もちろん大人が子供に投げるときは発達段階によって加減をすることもあります。自分の投げたボールが相手にしっかり届くと安心するし、「ナイスボール！オッケー！」と反応されると、「いいね。そうだね！」と言われたようでうれしくなります。

このように日常的なコミュニケーションや相手意識のある言動は、正に“心のキャッチボール”といえるのではないのでしょうか。長い休みが終わり、子供たちは今日から元気に登校してきました。改めて“心のキャッチボール”を意識したコミュニケーション活動を充実させていきたいと思います。

最後になりましたが、先月 28 日に発生した熊本地震、今月中旬の千葉豪雨により犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と、残暑厳しい中での皆さまの安全をお祈り申し上げます。